

平成15年度 「青森県豊かな海づくり大会」開催

平成15年度「青森県豊かな海づくり大会」が去る7月20日(日)、青森市の県水産ビルにおいて、県内漁協や水産団体関係者約250名が参加し盛大に開催された。

大会では、植村大会実行委員会会長が主催者の挨拶を述べ、続いて来賓の三村県知事、上野県議会議長が祝辞を述べた後、本県水産業での模範となる優れた実績を上げた1団体2個人に対して、三村県知事より「青森県水産大賞」が贈られた。

表彰に続いて、県漁業士会の坂岡正彦さんが「時代を見据えた漁業者を目指して」と題して発表。更には、県漁協女性組織協議会の秋田京子さんが「海の環境づくりの輪を広げよう」と題して



主催者の挨拶を述べる植村会長

よしの声をそれぞれ発表した。最後に、古川大会実行委員会副会長が大会決議を朗読し、満場一致で決議が行われた。また、大会終

了後、子供たちや大会関係者によるヒラメ・メバルの稚魚放流が行われ、大会は盛会にうちに終了した。

○青森県水産大賞受賞個人及び団体は次のとおり。

- 新 田 常 雄 (前佐井村漁協組合長)
- 三津谷 廣 明 (むつ湾漁業振興会長)
- 小川原湖漁業協同組合



稚魚の放流



祝辞を述べる三村県知事

大会決議

平成15年度 青森県豊かな海づくり大会

我が国は、累次におよぶ水産物の関税率引き下げによる自由化を受け入れてきた結果、市場には国内生産に匹敵する大量の水産物が流入して魚価低迷を招き、漁業経営は懸命の努力にも拘わらず、コスト割れによる減船、廃業等、極めて厳しい状況にある。

このような過大な貿易拡大は、世界の水産資源の枯渇に繋がり、本県のみならず国民の食料たる水産物の安定供給を唱える上で、避けては通れない大きな問題である。

また、漁業を永続的なものとするため、海浜・漁港の美化推進運動等を通じて、地域住民が集う、魅力溢れる美しい漁村づくりを推進することも重要な課題である。

我々は、青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承するため、

1. 持続利用可能な水産資源の回復を図るため、WTO水産物交渉のモダリティ要素案による水産物の関税撤廃に断固反対する。
2. 海浜及び漁港周辺の清掃・美化運動を通じて、魅力溢れる美しい漁村づくりを推進する。

よって、平成15年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり、私たち県民が一丸となって「資源回復と美しい漁村づくり」に取り組むことをここに決議する。

平成15年7月20日

青森県豊かな海づくり大会実行委員会